

平成 25 年度(後期)海外渡航助成金報告書
～AGU Fall meeting 2013 に参加して～

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
修士課程 2 年 木下千裕

2013 年 12 月 9 日～13 日までアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにて開催された AGU Fall meeting 2013 に参加し、ポスター発表を行いましたのでその成果報告を行います。

今回私が発表した研究テーマは「Change of permeability caused by 2011 Tohoku earthquake detected from pore pressure monitoring」です。地下水観測より得られたデータを使って東北地方太平洋沖地震前後の透水性変化を評価するというものです。日本では地震と地下水の関係について研究している人が多くはないため、国際学会で自分の研究を発表できるというのは、非常に嬉しいことでした。世界の人たちはどんな研究をしているのだろうか？自分の研究はどのような立ち位置にあるのだろうか？初の AGU 参加ではありましたが、不安よりも期待の方が大きかったです。連日行われる口頭発表、ポスター発表では熱い議論がなされ、もっと私も研究者として議論できるようになりたいと強く思いました。私は一対一で議論ができるポスター発表が好きなこともあり、多くの時間をポスター会場で過ごしました。地球科学全般の発表が行われるため、自分の分野とは違う発表も聞いてみましたが、農業や資源開発といった分野で自分の研究が活かされるかもしれないという発見があり、視野が一層広がりました。またポスター会場で感じたこと、それはどのようにすれば目立つポスターになるかということです。日本でポスターを制作するにあたり、多くの先生方から「できるだけ文字を少なくする」ということを何度も言われました。確かに何千枚もあるポスターから、わざわざ足をとめて見てやろうという気持ちにさせるためには、図、写真をいかに効果的に使用するか、内容が簡潔であるかということが大切になってきます。欲張って自分のやった研究内容をすべて書いたり、まるで原稿のようなポスターは自然と視界から外されます。自分があの会場を歩いたからこそ実感できたことです。

私のポスター発表は最終日でした。人が少ないのではないかと心配していましたが、日本人の方も海外の方も発表を聞きに来て下さいました。つたない英語でしたが、ひとつひとつ一生懸命説明すると、海外の方は大きく頷いて相槌をうってください、相手に伝わっているという自信になりました。しかし、説明後の議論となると、テンポよく話せない自分の英語にはがゆさを感じました。日本の学会ではもっと詳細な説明ができるのに言葉が見つからない。終わってみれば、あそこはこう説明すべきだった、もっとわかりやすい表現があったはずだと課題が出てきました。既に私の心は「来年の AGU は今年よりも成長して挑みたい」という決意を持っています。それまで、成果を出せるよう日々精進していきたいと思います。初めての AGU 参加は具体的な研究のこ

とはもちろん、国際学会へ参加することの意義を強く感じました。言葉ではうまく表現できませんが、それは私にとって最も重要な成果だと思います。

最後になりましたが、今回海外渡航旅費を援助してくださり、ありがとうございました。日本地震学会及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます。